

1年間の活動報告

～市内の戦争体験者への聴き取りや
戦争遺跡から学んだこと～

長野大学社会福祉学部
山浦ゼミナール

発表の流れ

1、活動の目的

2、活動紹介

- ・聴き取り調査
- ・フィールドワーク調査
- ・語り継ぐ活動

3、私たちから伝えたいこと

4、今後の活動予定

1、活動の目的

1、活動の目的

- ・上田市に暮らす、太平洋戦争の体験者（ヒト）への聞き取りや、市内の戦争遺跡（モノ）の調査から、歴史的事実（コト）を知り、戦争を自分事として捉える。

- ・聞き取りや調査の内容、そこから何を感じ学んだのか、私たち若い世代が、同世代や次の世代に「語り継ぐ」。

- ・本年度は「疎開」をテーマに活動を行った



2、活動紹介

活動紹介①

- 市内に暮らす、戦争体験者から当時の様子や想い、私たち若い世代に伝えたいことは何か、**聴き取り**を行った。
- 信濃毎日新聞の協力のもと、新聞や大学HPで語り部を募集。
- 本年度は計6名の語り部の方に協力していただいた。



実際の聴き取り調査の様子

聴き取り調査①

中村不二江さん（89）

- 父が山洋電機の北工場に工場長として赴任することになったため、家族で東京の世田谷から上田市に疎開することになった。
- 上田の北小学校では「東京っぺ」と呼ばれ、いじめられていた。
- 真っ白の校舎は真っ黒に塗られていた
→白くて目立つと、空襲で狙われるから



【疎開中のエピソード】

上田空襲の時

大きな警報が鳴ったことを覚えています。
父の会社が狙われるとのことで、
上田から群馬の上野村にまた疎開したんです。

その時に、父は母へ青酸カリを渡しました。
苦しくてどうしようもなくなったときに、
それ以上苦しまずに死ぬことができるように。

聴き取り調査②

石塚今朝男さん（93）

- ・終戦当時、三菱重工業第五工場（名古屋から疎開、現在のArio）に勤務していた。
- ・3度あったと言われる上田空襲を実際に体験している。
- ・上田空襲による犠牲者が出たということとは知らなかった。



上田市諏訪形 石塚今朝男さん（93）



- ・当時、友人と電器館で映画を鑑賞していました。
- ・「外へ出る」、避難命令が出た。「二階席からカーテンを開けて見た。」小県蚕業へ焼夷弾が落とされていた。
- ・鷹匠町の防空壕に誘導された。
- ・「ここにいると家に帰れなくなるかも知れない。」
- ・抜け出して上田橋までたどり着く
- ・振り返ると材木町方面の夜空にぴらぴらと降り花火のようで見えた。
- ・空襲警報で「はっと」して怖くなって急いで帰宅する。
- ・子どもがけがをしたというのは聞きました。
- ・亡くなったというのは、知りませんでした。

聴き取りを通して

- ・ 疎開と聞くと安全なイメージを持ちがちだが、実際は苦しい思いを強いられる現実があったということを知った。
- ・ 空襲は日本中で行われていたのだと改めて感じ、平和な日常がいかに重要かを考えなおすことができた。

活動紹介②

- ・ 昨年度同様市内に残る戦跡へのフィールドワーク調査を行った。
- ・ 訪れた場所は以下の6カ所。
 - ・ 仁古田飛行機製造地下工場跡
 - ・ 上田飛行場跡地（現千曲高校）
 - ・ 遊佐卯之助准尉一家自刃の地・慰霊碑
 - ・ 戦争を伝える松（松脂採取痕松）
 - ・ 戦災記念樹「欒」（現上田東高校）
 - ・ 奉安殿



仁古田飛行機製造地下工場跡地
上田市HPより引用

上田西高校との二度のフィールドワーク

【上田西高校の生徒の感想】

私は前回、今回と2回のフィールドワークに参加させていただいたのですが、戦争に対する考えがかなり変わりました。上田に特攻隊の訓練所があったこと、実際に何人もの人が特攻隊員として命を落としたこと、そして今回実際に遊佐さんと彼の妻子が亡くなった場所を訪れたことで戦争を身近に感じただけでなく、その悲惨さを思い知らされました。戦争についてより知ることができたこの経験を、自分の中だけで終わらせずに国内外の人たちに知ってもらえるようパンフレットという形でしっかり情報発信できるように頑張っていきたいです。貴重な機会をいただきありがとうございました。



本原小学校の奉安殿前にて

フィールドワーク紹介

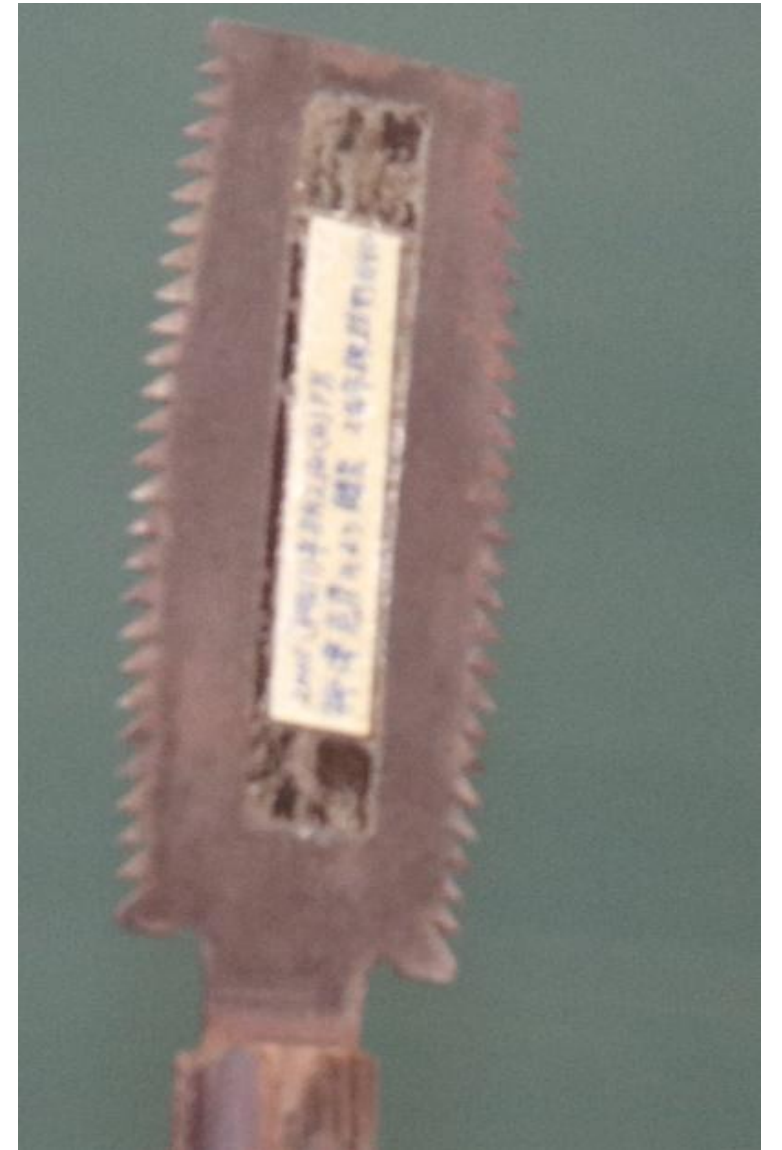
この写真の松の傷跡は何でしょうか

- 上田市東山にある松の木
- 矢羽根型の傷跡
- 戦争遺跡
- 松の木からとれる油（松脂）で燃料不足を補おうとしたがうまくいかなかった



松脂の採集方法

- ・ 右の写真ののこぎりを使って松に矢羽根型の切り込みを入れていく
- ・ 大人も子どもも一緒に
- ・ 切り込みの下に一斗缶と呼ばれる入れ物を置いて一日置くといっぱいになる



フィールドワークを通して

- ・ 戦争は**最大の環境破壊**である
- ・ 戦争は人の命だけでなく、自然の命も奪う
- ・ 人間と違って話すことはできない
- ・ 疑問を持ち松の声なき声に耳を傾けてみてはどうでしょうか



語り継ぐ活動



**市内の小学校、中学校、高校で
実際に行った語り継ぐ活動の
様子**

3、私たちが伝えたいこと

私たちの活動を通して、戦争について誰もが興味を持ち、自分事として考えることが大切である。
戦争体験は、決して風化してはいけないものだという認識を持って平和の尊さを感じてもらいたいと強く感じた。

4、今後の活動予定

今後の活動予定

- 活動記録集
「若者たちへの伝言2023」を
出版予定。
- 市内の小・中・高、公共機関に
配布予定。
- 2月中に市内の中学校をもう一校訪
れ、歴史の授業の時間で「語り継
ぐ」活動を予定。



ご清聴ありがとうございました。